

- ウ 4・5・6 学年 少人数グループ編成による指導（算数科）
- エ 4・5・6 学年 教科担任制による指導
 - ・ 4 年 生：社会・理科・音楽・体育
 - ・ 5・6 年生：社会・理科・音楽・家庭・体育

オ 特殊学級 特殊学級における個に応じた指導

基礎学力を身につけさせる指導法の研究を行う。

各教科の各学年の基礎となるべき内容を明確にし、確実な力となるよう、問題解決的な学習やコース別学習など指導法の改善を図ると共に、指導過程の工夫や日課時程等を検討する。

指導と評価の一体化を図る。

全学年を通して、児童の学力評価を生かした評価場面・評価方法など、多様な評価を工夫することにより、指導の改善を図る。

ア 児童の実態把握

NRTで学力の実態や単元導入前のレディネステストなどで、児童の学習状況の問題点や課題の洗い出しなどを行い、改善点を探る。

イ 児童の実態調査

プレテスト、チェックテストの実施

自己評価カード（算数がんばる君）の活用

(3) 研究の成果と課題

成果

算数科での学力の変容（5 学年を例にして）

5 学年は昨年度から 2 年間にわたって、単元ごとに少人数グループ編成による指導を行っている。昨年度 4 月に行った NRT の結果は、下表のとおり「量と測定」及び「図形」領域が落ち込んでいることが分かった。そこで、児童の学習状況を把握し、教材を工夫したり、少人数指導でコース別学習など指導形態を工夫したりして、重点化を図った指導を行った。その結果、同じ年度の 2 月に行った NRT では以下のような高まりが見られた。

| 領 域 | 量と測定 | 図 形 |
|-----------|-----------|-------|
| 全国正答率との比較 | 1 4 年 4 月 | 8 9 |
| | 1 5 年 2 月 | 1 1 8 |

しかし、下表のとおり「数と計算」の領域では伸びが見られなかった。

そこで、今年度も指導形態としては、少人数指導をもとに、児童の学習の状況を的確につかんだ授業の展開と、休み時間や放課後、「学力向上タイム」などを活用して個別指導にあたると共に、家庭学習の改善を図った。その結果、「数と計算」の領域も以下のように高まりが見られた。

| 領 域 | 数と計算 |
|-----------|-----------|
| 全国正答率との比較 | 1 5 年 2 月 |
| | 1 6 年 1 月 |

学級内 T・T 及び少人数グループ編成における指導（算数科）

ア 3 学年は週 4 時間、学級内 T・T による授業を展開している。

例えば、「かけ算のしかたを考えよう」の単元は、単元の終末段階に児童が自ら選択するコース別学習を取り入れた少人数指導を行った。その結果、次のような変容が見られた。

| | | |
|----------------|----------|-------|
| | レディネステスト | 単元終了後 |
| B基準を達成できた児童の割合 | 93.8% | 100% |

イ 4・5・6学年は、少人数グループ編成の機能を生かしながら、評価を生かした指導を行っている。単元によっては、終末に児童が自分の課題に応じたコースを選択するコース別学習も取り入れている。5学年「面積の求め方を考えよう」の単元においては、次のような変容が見られた。

| | | | |
|-----------|----------|---------|---------|
| | レディネステスト | コース別学習前 | コース別学習後 |
| A基準の児童の割合 | 23.0% | 20.3% | 40.8% |
| B基準の児童の割合 | 58.7% | 59.4% | 53.8% |
| 合計 | 81.7% | 79.7% | 94.6% |

T・Tや少人数指導のコース別学習では、単なる繰り返しの練習だけでなく、コース別に展開を工夫し、問題解決の場面で活用できるよう指導したことにより、知識や技能をよりよく身に付けさせることができたと考える。

教科担任制による指導（5・6学年の社会科と理科を例にして）

教科担任制は、教科の教材研究が深まり、教材開発や教具の工夫などが図られるだけでなく、同一時間の授業を何回か行うことができることから、指導方法を改善しながら、授業に臨むことができ、授業の質の向上につながっている。児童も、問題解決的な学習や体験的な学習を通して、思考しながら資料を読み取ったり、実験や観察を行ったりすることができるようになってきている。また、学習に対する興味・関心が高まり、意欲的に授業に臨んでいる姿が見られた。

社会科と理科においては、NRTによる学力テストの結果を見ても、教科担任制を始める前と比べ、この2年間で偏差値が次のように上昇した。

<社会科>

<理科>

| | | | | | |
|----------|------|------|----------|------|------|
| | 5学年 | 6学年 | | 5学年 | 6学年 |
| 教科担任制導入前 | 48.8 | 48.8 | 教科担任制導入前 | 46.9 | 49.9 |
| 実施2年後 | 51.8 | 53.7 | 実施2年後 | 52.7 | 53.6 |

課題

学級内T・T及び少人数グループ編成における指導（算数科）

ア 学力テストの結果から、上位児の伸びがあまり見られなかった。上位児に対して、さらに発展的な学習や教材の開発に努めていく必要がある。

イ B基準に達していない児童については、授業内で達成できるよう指導方法をより工夫すると共に、休み時間や放課後、学力向上タイムなどでの個別指導をさらに充実していく必要がある。

ウ より教材研究を深め、系統性や基礎・基本のさらなる洗い出しなどを行い、授業の質の向上に努めていく必要がある。

教科担任制による指導

ア 発展的な学習の内容に取り組みせたい児童の中には、自分の考えにこだわり、多様な情報をもとにして、解釈したり考えたりすることができにくい児童も見られることから、さらに指導の在り方を工夫していく必要がある。

イ 各教科で身に付けさせなければならないことは、確実に身に付けることがで

きるよう指導計画・指導過程の見直しを、さらに図っていく必要がある。
ウ 児童の個性やよさをさらに把握できるよう、より多面的な評価についての研究を進める。

(4) 研究成果の普及の方策

平成 15 年 11 月 11 日に研究公開を開催し、近隣の学校に研究成果の普及を行った。

研究公開内容

- ・ 1・2 学年：少人数学級における授業公開（算数科）
- ・ 3 学年：学級内 T・T 及び学級担任単独での授業公開（算数科）
- ・ 4 年生：教科担任制による授業公開（社会科・理科・音楽科）
- ・ 5 年生：少人数グループ編成による授業公開（算数科）
教科担任制による授業公開（音楽科）
- ・ 6 年生：教科担任制による授業公開（社会科・理科・体育科）
- ・ 特殊学級：生活单元及び算数科の授業公開
- ・ 少人数学級分科会・少人数指導分科会・教科担任制分科会の開催

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

【新規校・継続校】 15 年度からの新規校 14 年度からの継続校

【学校規模】 6 学級以下 7～12 学級
 13～18 学級 19～24 学級
 25 学級以上

【指導体制】 少人数指導 T・T による指導
 一部教科担任制 その他

【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他

【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無

【特色ある取組事例として紹介したいポイント】

少人数グループ編成と指導の工夫
教師の得意分野を生かした教科担任制による指導
学習状況の評価と指導の工夫